

やまぐち学園だより

やまぐち学園教育目標・発見し、はぐくみ、かたちにする学びの広場
めざす人間像:よよい未来を共に創り出す人間

第9号 2021年3月10日(水)

山口大学教育学部附属幼稚園

〒753-0070 山口市白石三丁目1番2号 TEL 083-933-5960

山口大学教育学部附属山口小学校

〒753-0070 山口市白石三丁目1番1号 TEL 083-933-5950

山口大学教育学部附属山口中学校

〒753-0070 山口市白石一丁目9番1号 TEL 083-922-2824

「ふり返し」を通して「成長」を自覚する

附属幼稚園長・附属山口小学校長 富士本 武 明

早いもので本年度も残すところ、あとわずかとなりました。コロナ禍の中での1年間でしたが、本年度をしっかりと締めくくべく、各校園での教育活動を進めているところです。先日は「幼小中合同会議」を開催し、学園の教職員が一堂に会し、本年度のふり返しと来年度の見通しの確認を行いました。

さて、去る3月3日(水)は「桃の節句」、所謂、ひな祭りの日でした。附属幼稚園においては、3歳児、4歳児、5歳児のクラス毎に、1年間の成長を振り返るとともに今後の健やかな成長を願って、午後の一時、ささやかではありますが「ひな祭り」を実施しました。私はこの日、附属幼稚園におり、4歳児のクラスのひな祭りに参加していました。担任と子どもたちの間で、以下のようなやりとりがありました。

担任：今日は「桃の節句」、ひな祭りです。5月にみんなが大きくなっていくことを祝う「端午の節句」があっただけで、覚えていますか。

子どもたち：覚えているよ！ こいのぼり！

担任：そうだね。あれから時間が経ったけれど、みんな、また大きくなったね。

子どもたち：うん、大きくなった！ ○○ができるようになった！ 私も！！



まだまだ小さな子どもたちですが、自分が「大きくなったこと」、「できるようになったこと」を誇らしげに語っている姿に思わず笑みがこぼれました。そして、子どもたちなりに自身の成長を自覚していることにうれしくなりました。

一言で成長と言っても、目に見えるものと見えにくいものがあるように思います。

乳歯が抜けて永久歯が生える、背が伸び体つきが変わる、声変わりをする、自転車に乗れるようになる、九九の暗唱ができる、方程式が解けるようになるなどは目に見える成長であるため、子ども自身も自覚しやすいように思います。一方、物事に対する考え方や捉え方が変化していく、自他を思いやる気持ちが育つ、感謝する気持ちが育つなどの心情に関する成長は見えにくいものです。特に子ども自身が自覚することは、意外に難しいものです。周囲の他者から言われて「ああ、そうだったのか」と思うこともあるでしょう。ですから、成長を自覚するためには、適宜、自身の姿をふり返ることが大切になってきます。

そこで、本学園では、子どもたちが自身の成長を自覚することができるよう、教育活動における「ふり返りの時間」を大切にしています。幼稚園では「帰りの集まり」の際に、その日の遊びや園での生活について、子どもたちが話す時間をつくっています。遊びの中で生まれた成果や問題を園児なりに見つけ、明日の遊びにつなげていくのです。小学校では1時間の授業におけるふり返しはもちろんのこと、毎朝の「フリートーク(テーマに基づいた自由な話し合い活動)」の時間においても行います。自分たちの取組を見つめ、話し合いがどのように深まり広がりを見せていったのか、ということについて意見を出し合い共有するのです。

これらのふり返りの祭には、必ず「価値付け」を行っており、幼稚園や小学校では、主に教師が価値付けを行っていきます。

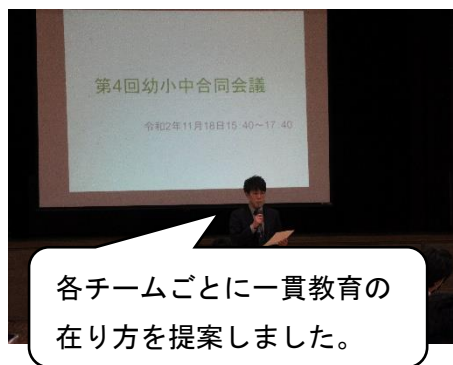
中学校では授業におけるふり返りの他、定期的に学年会を実施して諸々の取組についてふり返しを行っています。幼稚園や小学校と同様に教師による価値付けを行いますが、子どもたち同士での価値付けの場面を増やしているのが特徴です。子どもが価値付けを行うことにより、俯瞰して物事を見つめる姿勢や我が事としてよりよい方策を考え実現していこうとする態度が育っていくのです。

目に見える成長、見えにくい成長。いずれにしても、子どもたちが自身の成長を自覚することは、大変重要な意味をもっています。自己肯定感の高まりとともに未来へと歩んでいく力となると考えるからです。これからも一貫教育を通して、子どもたちが自身の成長をしっかりと見つけ、未来へとつなげていくことができるやまぐち学園でありたいと願っています。

本年度最後の学園だよりとなりました。本学園の教育活動に対しまして、保護者の皆様、地域の皆様から多くのご支援とご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

【幼小中合同会議】

今年度は、コロナウイルス感染拡大の防止の観点から、幼小中の教職員が一同に会しての会議を開催することが難しい状況が続きました。しかしながら、コロナ禍においても幼小中一貫教育がストップすることのないよう、感染防止の対策を講じながら会議を開きました。11月18日の会議では、今の状況で何ができるのか、来年度以降、どのように進めていくのか議論しました。今後も子どもたちの健やかな成長のため、取り組んでまいります。



各チームごとに一貫教育の在り方を提案しました。



密とならないよう体育館で行いました。



幼小中の教職員同士で課題を共有したり、よりよい方法を考えたりしました。

【保健安全班】

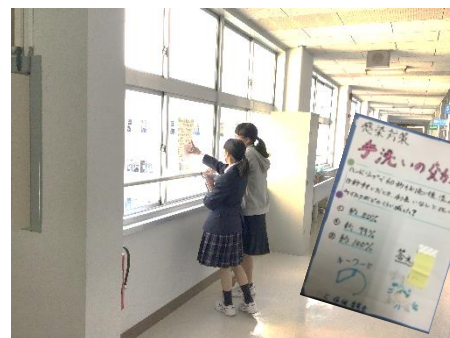
幼小中一貫教育の一つとして、幼小中統一テーマで保健安全に関する取組を実施しております。今年度のテーマは「新型コロナウイルス感染症に負けない健康づくり」です。ご家庭でもお子様と一緒に話ししていただけたらと思います。



(幼稚園：保健指導)



(小学校：保健指導)



(中学校：保健委員会による活動)

「手洗い」「咳エチケット」などについては、実際に、手洗いの実技やテープを使って距離を確認してみました。園での生活にも生かされています。

新型コロナウイルス感染症についての話や冬休みに実施した「生活カレンダー」のふりかえりを利用し、児童と一緒に生活習慣について考えました。

保健委員会が「手洗いについて」のポスターを作成しました。ウォークラリー形式にすることで、みんなが楽しめるように工夫しました。

【生徒指導班】

幼小中一貫教育の取組には、幼小中の子どもたちの交流活動があります。「あいさつ運動」は、今年度の9月から始まりました。登校時間が重なる小中学校の児童生徒が、月の終わりにそれぞれの学校の校門に並び、登校してくる児童や生徒、通りがかりの地域の方々にあいさつをします。総勢100名を超える児童生徒が参加し、元気よくあいさつをしています。あいさつ運動に参加した中学生は、「小学生のあいさつが元気で、負けないようにあいさつをした。」と話していました。



中学校の3年生が11月、幼稚園の登園時間に合わせてあいさつ運動をしました。

【特別活動班】

特活班の活動には、小学校の児童会と中学校の生徒会の交流の企画があります。中学校の生徒会が、小学校の児童に中学校を知ってもらおうと、附属中学校で受け継がれている伝統を紹介した「附中遺産」を作成しています。受け継がれている伝統は、附属中学校のホームページでも紹介する予定です。ぜひご覧ください。